

2025 年度 高槻中学校・高槻高等学校 学校評価

1 めざす学校像

- めざす学校像
次代を担う人物を確かに育成する最優の進学校を目指す
- 教育方針
確かな学力・豊かな人間性・健やかな心身の育成と、変化する社会に積極的に対応し得る能力・意欲・創造性を養う

2 中期的目標

- 【中期的目標】、【課題を踏まえた実践計画】
- S S H(スーパーサイエンスハイスクール)、S G H N(スーパーグローバルハイスクールネットワーク)としての教育活動およびコース制の充実**
- 指定3期2年目のS S H(スーパーサイエンスハイスクール)指定校としては「グローバルマインドセットを備えた生命科学系リーダーの育成」を、9年間取り組んできたS G H事業を引き継ぐS G H N(スーパーグローバルハイスクールネットワーク)参加校としては、「大阪医科薬科大学と一体化したアジア圏の人々の健康を支えるグローバルリーダーの育成」を目指し、より高度で質の高い教育活動の展開を図る。また、コース制は導入12年目となり、中3以降の学年が、G S(グローバルサイエンス)、G A(グローバルアドバンス)、G L(グローバルリーダー)のカリキュラムに則った学修を進めている。今後、コースの特性に応じた教育プログラムのより一層の充実を図っていく。
- School Mission「Developing Future Leaders With A Global Mindset」の実現を図る教育活動の展開**
- 本校のミッション実現に向け、卓越した語学力や国際的な視野を持って、世界を舞台に活躍できる次世代のリーダーを育成するための教育活動をより充実させる。また、あらたにユネスコスクールの採択を受け、教育活動のさらなる充実を目指す。
- 高大連携の教育プログラムの充実**
- 同一法人である大阪医科薬科大学との連携、S S H(スーパーサイエンスハイスクール)の指定、S G H N(スーパーグローバルハイスクールネットワーク)の参加というメリットを活かし、より多様で質の高い高大連携の教育活動、教育プログラムの充実を図っていく。
- 「探究型」学習の充実と学力の三要素の育成**
- 本校は、特色教育の一展開として「探究型」学習に取り組んでいる。思考力を重視した問題解決的な学びは、学習指導要領、それを踏まえた大学入試改革のキーワードにもなっている。そこでは、新しい時代に求められる資質・能力の三つの柱として[知識・技能][思考力・判断力・表現力][学びに向かう力・人間性]が挙げられている。各教科においては、知識の習得(インプット)だけではなく、考察と仮説の構築、推論による検証を繰り返す体系的な学びを促し、それを運用(アウトプット)する力を体得させるような学習を、本校の教育活動全体を通じて積極的に行っている。また、幅広い学びの成果や活動を記録するポートフォリオを活用し、生徒自身が振り返りや学習計画の改善、キャリアデザインできるよう指導している。さらに、中学では年度末に学修インタビューを行い、生徒自身が教育活動全般を振り返って省察しプレゼンテーションを行い、高校では学年総括ポートフォリオを作成し、自らの学習や学びを振り返ることを通して、主体的に学ぶ力や意欲の伸長を図っていく。
- 高い学力が確かに身につく指導と成果の検証**
- 進学実績の飛躍的な向上を図るため、各学年が年間計画で取り組む学力向上のための取り組みの実施状況とその成果について、節目節目で検証を行い、学校全体として実効性のある改善策を実施する。また、基礎・基本を徹底し、十分な理解度や到達度をもった上で、知識活用型の発展的な学習に取り組めるよう、特に中学段階における学習指導を徹底する。さらに、生徒の潜在能力を発揮させ、学力を十分に伸ばせるよう全校をあげて学力向上に関する具体的な取り組みを実践していく。
- 徳育教育の充実**
- 生徒が生命を大切に思う気持ちや社会のルールを身につけることができるよう、年間指導計画に基づき道德教育を継続的に行っている。共学9年目を迎え、服装、挨拶、清掃活動など生活の基本を大切にする指導を徹底しながら、徳育教育の充実を図っていききたい。また、平和学習を目的とした中学修学旅行、ボランティア活動の奨励、道德教育の充実、人権教育の推進等とともに、学校の様々な教育活動を通して、心豊かな人間を育成していく。
- 社会貢献活動としてのボランティアの推進**
- 2016年度より活動してきたボランティア活動支援センターを今年度よりボランティア活動推進部とあらため、さらなる取組の充実を図る。本校のミッション実現のため、多様で豊かな人間関係にふれる体験を教育活動の中に位置づけ、リーダーが持つべき他者を思いやる心、奉仕の心、課題解決力を育む活動を実施していく。社会貢献活動を中心に行うボランティア委員会と、生徒募集イベントにおいてボランティア活動を行っている「T - B E S T」の活動が両輪となって、ひいては世界や人類の福祉に貢献できる人物の育成に寄与していく。
- 指導力および資質の向上を図る教員研修の実施**
- 本校の特色ある教育の実践には、教員の指導力が必要不可欠である。教科指導や教育的課題についての学校内外での研修をより充実させ、日常的なO J Tの活性化を図っていききたい。大学入試改革、学習指導要領の改訂の動向を注視しつつ、求められる資質や能力を見定めながら、教育活動の深化、協働性を高める取り組みを機動的に実践していく。
- I C T利活用教育の推進**
- これからの高度情報化社会を生き抜くために必要なI C Tスキルを養うため、中高を通じてメディアリテラシーを含めたI C T教育を充実させていく。
- 学校行事の精選**
- これまでに取り組んできた教育活動を振り返り、これからふさわしい教育活動の構築のため、学校行事の精選を行い、必要に応じて再編していく。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔2025 年実施分〕	学校協議会からの意見
【総論】 (1) 教員評価（アンケート項目数 30） ・昨年度からの改善項目数： 15 項目（昨年度 18 項目） ・評価が 90％以上の項目数： 21 項目（昨年度 20 項目） ・評価が 80％以上の項目数： 29 項目（昨年度 30 項目） ・経年比較で 10％以上の改善が見られた項目： 0 項目（昨年度 2 項目） 最大の上昇幅は、項目 22「教職員間の相互理解、信頼関係に基づいて円滑に教育活動が行われている」の 9％向上（81％→90％） (2) 生徒評価 中学生（アンケート項目数 30） ・昨年度からの改善項目数： 12 項目（昨年度 12 項目） ・評価が 90％以上の項目数： 10 項目（昨年度 13 項目） ・評価が 80％以上の項目数： 28 項目（昨年度 27 項目） 項目 10「ホームルーム活動」(77%)、項目 12「生活指導の方針への共感」(79%)の 2 項目を除くすべての項目で 80％以上 分析のポイント： 中学生全体では、教育活動を通じた「多様な経験（項目 22：93％）」や「学校行事の楽しさ（項目 23：90％）」が高い評価を得ている一方で、「生活指導」に関しては学年による認識の差（中 1 は肯定的だが中 2 で低下する傾向）が見られる。また、中 3 における「家庭学習の定着（項目 18）」への評価が平均を下回っている点は、今後の学習指導における課題として挙げられる。 高校生（アンケート項目数 30） ・昨年度からの改善項目数： 28 項目（昨年度 21 項目） ・評価が 90％以上の項目数： 19 項目（昨年度 12 項目） ・評価が 80％以上の項目数： 29 項目（昨年度 28 項目） 項目 11「生活指導の方針に共感できますか(76%)」を除くほぼ全ての項目で 80％以上 ・経年比較で 10％以上の改善が見られた項目： 0 項目（昨年度 0 項目） 分析のポイント： 高校生全体では「授業と補習による学力伸長(項目 20：97％)」や「将来の将来に向けた生活の有用性（項目 2：96％）」など、学習面・進路面で極めて高い評価を得ている。一方で、「生活指導の方針への共感（項目 11）」は 76％と低く、また、高校 1 年生において生活指導に関する評価が平均を下回っている（項目 5、項目 11 とともに-5％）点は、今後の課題といえる。 (3) 保護者評価 中学生（アンケート項目数 28） ・昨年度からの改善項目数： 3 項目（昨年度 18 項目） 項目 18（クラブ活動）、項目 23（災害時対応マニュアル）、項目 28（保護者会活動） ・評価が 90％以上の項目数： 6 項目（昨年度 11 項目） ・評価が 80％以上の項目数： 26 項目（昨年度 27 項目） ・経年比較で 10％以上の改善が見られた項目： 0 項目（昨年度 0 項目） 高校生（アンケート項目数 28） ・昨年度からの改善項目数： 19 項目（昨年度 25 項目） ・評価が 90％以上の項目数： 13 項目（昨年度 11 項目） ・評価が 80％以上の項目数： 27 項目（昨年度 27 項目） 経年比較で 10％以上の改善が見られた項目： 0 項目（昨年度 0 項目） 分析のまとめと課題 保護者評価全体では、「教育方針の周知（項目 1）」「施設・設備（項目 24）」、「個人情報の保護（項目 26）」において 90％を超える高い信頼を得ている。一方で、中学保護者において「学習内容・進度の把握（項目 4：73％）」や「到達度に応じた指導（項目 5：75％）」が平均的に低い点は課題である。特に中学 2 年生の保護者において、学習指導や生徒理解に関する評価が平均を下回る傾向が見られるため、家庭との情報共有や個別のフォローアップが Action（改善方策）の焦点となる。	(1) はじめに 教職員、生徒、保護者のいずれにおいても、すべてのアンケート項目についてプラス評価の回答が 70％以上を占めていることは高く評価できるものと考えます。一方、学年比較又は経年比較で 10％以上のマイナスが生じているものは、特に注視が必要ですが、今回の調査結果では概ね良好な傾向だと考えます。ただし、ある特定の学年（中 2 の保護者評価）において経年比較で 4 項目が 10％以上のマイナスとなっており、評価の低さが顕著です。以上を踏まえつつ、以下、各論に触れます。 (2) 教職員へのアンケート結果より 2024 年度から 2025 年度にかけてプラス評価の回答率は増えたものは 15 項目で、プラス評価の回答率が減ったものは 12 項目、3 項目は昨年と同率です。また、10％以上の減となった項目はありません。2023 年から 2 年連続で減少となっている項目はなく、2024 年との比較では 29 項目でプラス評価が増えています。以上のことから、概ね問題ないと評価できると考えます。 (3) 生徒へのアンケート結果より 中学生、高校生ともに、項目 2,3 の「学校生活が将来に役立つか」「学校生活の充実」への好意的回答が 92％～96％と非常に高水準で、学校生活を楽しんでいると推察され、評価できるものと考えます。 中学 1 年において中学平均との差が 5％以上高い項目として 6「生活指導は適切か」、18「自学自習、家庭学習定着の指導」の 2 項目があり生活指導の方針と自学学習指導への理解が高いと言えます。一方、6 については中学 2 年のプラス評価が 77％、18 については中学 3 年のプラス評価が 76％と、いずれも中学 1 年より 11％低い点が懸念されます。 同様に、高校 2 年は高校平均との差が 5％以上高い項目が 3 つと最も多いですが、その中の 1「スクールミッションの認知」については高 3 年生の高評価が 72％と高校 2 年より 15％低く、11 の「生活指導の方針への共感」については高校 1 年の高評価が 71％、高校 3 年の高評価が 74％と高校 2 年より 8％～11％低い点が注目されます。中学、高校のいずれも学年間の差について、学年ごとの指導における違いが無いかなど確認の必要性があると考えます。 11 の「生活指導への共感」は上にも述べた通り、高校 1 年、高校 3 年の高評価が低い傾向にあり、あまりあてはまらない、あてはまらないとのマイナス回答が高校 1 年 30％、高校 2 年 18％、高校 3 年 26％であり、他項目と比較してマイナス回答の比率が高いことにも注目すべきです。中学 2 年も 6「生活指導は適切か」で高評価 77％に対しマイナス回答が 23％であり、上に挙げた学年での指導に改善点がないか確認する必要性があると考えます。生活指導については数値だけでは単純に評価できない面はあるとしても、マイナス回答が高い項目である以上、生徒に十分な理解を得られるような指導が出来ているか分析と注視は必要であるといえるでしょう。 その他の項目については概ね高評価であり、生徒達の学校生活への満足度は高いと考えます。 (4) 保護者へのアンケート結果より 中学校、高等学校の保護者全体については、全ての項目でプラス評価 70％以上であること、あてはまらないとのマイナス回答が 10％以下であることの 2 点から大きな問題は無いと考えます。 懸念点は、中学 2 年の保護者の評価の低さが顕著であることです。中学平均保護者より高評価の割合が高い項目はひとつもなく、同率が 1 項目のみです。一方、中学保護者平均より高評価が 5％以上低い項目が 5，9，13，16 の 4 つあります。このうちの 3 項目は「学校の雰囲気がよく子供たちが生き生きしているか」「先生は子供をよく理解しているか」「学校は、自分の将来の生き方をよく考え、豊かな心を持った子供に育てようとしているか」という学習面ではなく、子供の豊かな学校生活と人格形成に関わる設問です。特に中学生の保護者としてはこのような面で学校に対する期待が大きく、学校に対してこの点での信頼が揺らげば、満足度は低下すると考えられます。この学年でのみ、このような評価となった要因を分析し、今後、学年運営に生かしていく必要があると考えます。 他に、敢えて課題を挙げるとすると、中学保護者の項目 4「学習の内容や進度を懇談、学年通信、シラバスなどによってよく知ることが出来るか」において高評価の回答が中学 1 年生 69％、中学 2 年生 71％と低いことです。2023 年、2024 年の中学保護者平均からもそれぞれ 4％減、今年度中学 3 年生が 80％であることを考えると中学 1 年生、2 年生に対して情報が十分に届いていない可能性を考える必要があるのではないかと考えます。 また、項目 11「子供の心身の健康について気軽に先生と相談できるか」については高評価 74％と低スコアであることと 2023 年の 82％、2024 年の 78％と比べて右肩下がりになっていることが気になります。関連する項目 10「学校は子供のことについて適切に相談に応じてくれますか」に関しては高評価 84％ですが、こちらも 2023 年の 89％、2024 年の 88％と比べて低下傾向にあります。相談した保護者にとっては満足のいく対応をしてもらえたと解釈でき、その点は評価出来ますが、気軽に相談できるという認識を高めていくような情報発信についても検討の余地があると考えます。 (5) まとめ 注視すべき点はあるとしても、今回のアンケート結果をみれば、教職員、生徒、保護者の全てにおいて満足度が高く、これまでの学校の改善努力が高いレベルで実っているといえます。経年の評価をみてもその高いレベルを維持、継続していることは賞賛に値し、保護者として学校の努力に感謝と敬意を伝えたいと思います。今後の課題はその各論で述べた学年ごとの細かな課題を、丁寧にフォローしていくことにあると考えます。保護者と学校の良好な関わりが生徒の健やかな成長に重要であることはいうまでもなく、今後も、学校と保護者が、生徒の指導教育について円滑かつスムーズに連携し対応し良好な協力関係を維持することを期待します。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
①SSH、SGHNなどの 教育活動およびコース制の充実	(1) S S Hの教育活動の 充実 (2) S G H Nの教育活動 の充実 (3) GL コースの教育活 動の充実 (4)コース選択に関するガ イダンスの実施	【SSH】課題研究やその成果の発表、SS セミナー、サイエンスキャンプ、科学技術コンテスト参加 【SGHN】課題研究やその成果の発表、グローバルセミナー、大崎上島離島体験 【GL 探】課題研究やその成果の発表 【特色】 ア．中2 コース説明会（生徒・保護者対象） イ．課題研究発表会	【SSH】各教育プログラムの計 20 回の 実施 【SGHN】グローバルセミナーの年 3 回 実施 【GL 探】課題研究発表会での発表 【特色】ア．各 1 回実施 イ．課題研究発表会の実施 【自己評価】項目 1 「本校の教育活動には、他の学校にはない特色がある」の肯定的評価が 95 % (202 4 年度 98 %)	【SSH】必修 SS セミナー（15 本）サイエンスキャンプ（8 回）を実施した。科学系コンテストに多数参加し、優秀な成績をおさめた（ ） 【SGHN】予定通り年 3 回実施した（ ） 【GL 探】「科学倫理」に関する課題研究を行い、Takatsuki 探究成果発表会で発表した（ ） 【特色】ア．計画通り実施した（ ） イ．Takatsuki 探究成果発表会（TIP2026）と名称をリニューアルし、全校体制で実施した（ ） 【自己評価】項目 1 の肯定的評価は 99 %（ ）
School Mission の実現を図る教育活動の展開	「Global Mindset」を持った次世代のリーダーを養うための教育活動の実施	【国際】 ア．英語教育の充実（ケンブリッジ英語） イ．ケンブリッジ英検の受検（中2・高1） ウ．英会話授業（オンライン英会話・アドバンスト英語プログラム等） エ．ターム留学(カナダ・アメリカ)プログラム オ．次世代リーダー養成プログラム(英国、米国研修) カ．DDP(Dual Diploma Program) キ．各種大会・参加への支援 【SGHN】 ア．海外の中等教育学校（台湾、パラオ）との提携と交流行事 イ .GA 台湾研修・パラオ研修での海外フィールドワーク 【SSH】GS 台湾研修 【GL 探】GL パリ研修	【国際】各プログラムの実施 【SGHN】各プログラムの実施 【SSH】GS 台湾研修の実施 【GL 探】GL パリ研修の実施 【自己評価】項目 15「探究的な教育活動が行われている」の肯定的評価が 90 % (202 4 年度 89 %)	【国際】ア．ウについては、カリキュラム通りに実施した（ ） イ．中学2年生、高校1年生に対し、ケンブリッジ英検を校内で実施した（ ） エ．オ．カについては、計画通りプログラムを実施した（ ） キ．各種大会・参加への支援を行い、中・高校生が多くの大会に参加、入賞を果たした（ ） 【SGHN】予定通り各プログラムを実施した。延平高級中学校来校に伴い、歓迎行事を実施した（ ） 【SSH】GS 台湾研修を実施した。陽明交通大学大学院生と交流し、全員が英語発表の準備をすることができた（ ） 【GL 探】海外研修（インドネシア・パリ）を実施し、英語による発表を行った（ ） 【自己評価】項目 15 の肯定的評価は 95 %だった（ ）
高大連携の教育プログラムの充実	高大連携の教育プログラムの開発	【SSH】 ア．大阪医科薬科大学医学部との連携事業 イ．大阪医科薬科大学薬学部との連携事業 ウ．大阪医科薬科大学看護学部との連携事業 エ．東京大学・京都大学・大阪大学・大阪工業大学との連携事業 オ．京都大学・大阪大学・大阪医科薬科大学の研究施設訪問 カ．GS コースにおける海外大学との交流プログラム 【SGHN】台湾研修における研修プログラム	【SSH】 ア．基礎医学講座、医学部実習、最先端医学教室、高大接続課題実習の実施 イ．サマーサイエンスプログラム、基礎薬学講座の実施 ウ．思春期教室の実施 エ．各大学との連携事業の実施 オ．各大学の研究施設を訪問 カ．台湾国立陽明交通大学での課題研究発表会の実施 【SGHN】国立台湾大学、台北医学大学での発表と研修プログラムの実施	【SSH】 ア．基礎医学講座（8 回）医学部実習、最先端医学教室、高大接続課題実習を実施した（ ） イ．予定通り各プログラムを実施した（ ） ウ．思春期教室を実施した（ ） エ．京都大学との連携事業「STEM girl」、東京大学・大阪大学「REHSE」支援事業、大阪医科薬科大学訪問を実施した（ ） オ．京都大学原子力研究所、花王研究所の研究施設を訪問した（ ） カ．予定通り課題研究発表会を実施した（ ） 【SGHN】予定通り各プログラムを実施した（ ）

高槻中学校・高槻高等学校				
「探究型」学習の充実と 学力の三要素の育成	(1)高校生の「探究型」学習の充実と中学生段階での素地作り (2)資質・能力の三つの柱 「知識・技能」「思考力・表現力・判断力」「学びに向かう力・人間性」の育成	【SSH】GS コース「理数探究基礎」「理数探究」における探究活動 【SGHN】GA コース「グローバルスタディーズ入門」「グローバル課題研究」における探究活動 【GL 探】GL コース「クリティカルシンキング」における探究活動 【特色】 ア．学修インタビュー イ．学年総括ポートフォリオ 【国際】スタンフォード大学とのオンライン講座プログラム（Stanford e-Takatsuki） 【図書】 ア．図書館を利用した探究教育 イ．図書館における読書活動 ウ．図書委員を軸にした講演会	【SSH】GS コース「理数探究基礎」「理数探究」を実施 【SGHN】GA コース「グローバルスタディーズ入門」「グローバル課題研究」を実施 【GL 探】GL コース「クリティカルシンキング」を実施 【特色】 ア．中学 3 学年で実施 イ．高校 3 学年で実施 【国際】高校 1 年生対象に実施 【図書】 ア．探究の授業において司書と連携し、研究内容に即した資料等の提供を行い、学期毎にレポートや発表で検証 イ．司書と連携しポスターやイベントを運営、図書館での利用者を都度カウントし、月毎に利用者数を報告 ウ．図書関連の講演会を実施 【自己評価】項目 6 の肯定的評価が 90％(2024 年度 95％)	【SSH】計画通り探究活動を実施した（○） 【SGHN】計画通り探究活動を実施した（○） 【GL 探】計画通り探究活動を実施した（○） 【特色】 ア．中学 3 学年で実施した（○） イ．高校 3 学年で実施した（○） 【国際】計画通り Stanford e-Takatsuki を計 8 回実施した（○） 【図書】 ア．中学及び高校の探究の授業において、図書館を有効に活用することができた（○） イ．司書と連携し、図書館において展示などの工夫を行った。また、定期的な人数のカウントも行った（○） ウ．児童文学作家による講演会を行った（○） 【自己評価】項目 6 の肯定的評価は 95％だった（○）
	ベンチマーク (A)難関国立 10 大学 合格者 150 名 (B)国公立医学部 + 大阪医科大学薬科大合格者 60 名 (C)中学卒業時の英語力 50％が英検 2 級 (D)高校卒業時の英語力 15％が英検準 1 級	【進路】 ア．学力向上策の策定および実施 イ．中学段階において、セルフマネージメントプランナーを活用した学習習慣の向上 ウ．高校段階において、模試での目標を明確にし、好ましい学習習慣を形成 エ．進路意識を向上させるキャリア教育 オ．高校 3 年 3 学期の受験指導の強化	【進路】 ア．各学年の学習到達度の状況と学力向上策の成果について、学期毎に検証を実施 イ．中学生の評価において項目 18、項目 20 の肯定的評価が 85％(2024 年度項目 18 が 82％、項目 20 が 83％)、中学卒業時の英検 2 級合格率 50％以上(2024 年度 45.2％) ウ．高校生の評価において項目 20 の肯定的評価が 95％(2024 年度 95％) エ．中 1、中 2、高 1 で講演会を年 1 回ずつ実施 オ．二次対策講座の組織的な開設	【進路】 ア．成績検討会・出願先検討会を実施し、適切な時期に適切な進路指導を行った。（○） イ．中学生の評価において項目 18、項目 20 の肯定的評価はそれぞれ 81％、83％であった。英検 2 級合格率は 50.4％であった（○） ウ．項目 20 の肯定的評価は 97％であった（○） エ．各学年で講演会を計画通り実施した。（○） オ．二次対策の組織的な特別授業の開設に加え、登校日を設けるなど意欲喚起に努めた（○）
	(1)生活の基本を大切に する指導の徹底 (2) 道徳教育の充実 (3)平和学習を目的とした 修学旅行の実施 (4) 人権教育の推進	【生指】挨拶や服装など生活の基本を大切にする指導 【保健】年間を通じた清掃活動の実践 【授業担当】中学 3 年間を通じた系統だった道徳教育 【人権】平和学習を目的とした修学旅行（中学 3 年） 【人権】 ア．年間計画に基づき、各学年でテーマを決め、毎学期 1 回人権 LHR を実施 イ．生活アンケート	【生指】生徒の評価において、項目中学 11 高校 10、中学 13 高校 12 の肯定的評価が中学生・高校生ともに 90％(2024 年度中学 11 が 89％、高校 10 が 87％ 中学 13 が 90％、高校 12 が 85％) 【保健】毎日の清掃指導に加え、週 2 回の全校清掃の実施、自己評価において項目 24 の肯定的評価が 85％(2024 年度 84％) 【授業担当】中学 3 年間を通し、系統だった道徳教育の実施 【人権】系統だった平和学習の実施 【人権】 ア．中学生、高校生の評価において、項目 26 の肯定的評価が 90％(2024 年度 91％、93％) イ．中 1、中 2 は年 3 回、中 3 ～高 3 は年 2 回実施	【生指】肯定的評価は中学 11 が 88％、高校 10 が 90％、中学 13 が 87％、高校 12 が 88％であった（○） 【保健】通常の清掃活動に加え、大掃除の見直しも図り効率的に清掃活動を実施できた（○） 【授業担当】カリキュラム通り系統だった道徳教育を実施した（○） 【人権】平和学習を目的とした修学旅行において、戦争について深く考える契機を提供できた（○） 【人権】 ア．中学生、高校生の評価において、項目 26 の肯定的評価が中学 91％、高校は 95％であった（○） イ．それぞれの学年で既定の回数を実施した（○）

高槻中学校・高槻高等学校				
のボランティアの推進	ボランティア活動を行うための体制作りと活動支援および活動内容の充実	【ボランティア】 ア．ボランティア活動支援センターの体制を確立し、ボランティア委員会(生徒の組織)による社会貢献活動を計画 イ．ロータリークラブをはじめ他団体との地域連携 ウ．日本青少年赤十字(JRC)との連携 エ．校内・校外企画（クリーンハイク等） 【渉外】校内生徒募集イベントにおける「Ｔ－ＢＥＳＴ」メンバーのボランティア活動	【ボランティア】 ア．年度末報告 イ．年８回実施 ウ．年５回実施 エ．年５回実施 【渉外】「T-BEST」が学校見学会・入試説明会に年９回参加	【ボランティア】 ア．発展的な体制の確立ができ、生徒主導での社会貢献活動も計画できた（○） イ．ロータリークラブとの連携の他、今年度は高槻市主催の清掃行事にも参加した（○） ウ．トレーニングセンターやスタディセンターなどの宿泊を伴う行事において、他校に主導して活動することができた。（○） エ．文化祭では募金活動・廃棄傘のリユース活動を実施した。また、青銅祭や高槻ジャズストリートでのブース運営も滞りなく実施できた。（○） 【渉外】学校見学会に６回、入試説明会に２回、オープンキャンパスに１回参加した（○）
指導力および資質の向上を図る教員研修の実施	教員の指導力および資質の向上	【進路CD】難関大学入試問題研究会 【教務】学びあい週間 【人権】教員向け人権研修会 【研修担当】 ア．研究授業 イ．５年経験者研修 ウ．新任研修 エ．いじめ防止教員研修会	【進路CD】年１回実施 【教務】年１回（２週間）実施し、自己評価において項目２７の肯定的評価が９０％（2024年度86％） 【人権】年１回実施 【研修担当】 ア．年１回実施 イ．該当教員に対し、実施 ウ．年１０回実施 エ．年１回実施	【進路CD】５月に実施し、全員で情報を共有した（○） 【教務】年１回（２週間）実施した。項目２７の肯定的評価は９０％であった（○） 【人権】年度末に実施した（○） 【研修担当】 ア．秋に実施した（○） イ．該当教員１名に対し、年間を通じて実施した（○） ウ．年１０回実施した（○） エ．春に実施した（○）
教育の推進	BYODによるICT教育の充実	【ICT】ICT教育推進委員会の教員サポートによるICT利活用教育の推進・環境整備・指導体制の構築 ア．メディアリテラシー教育の充実 イ．探究活動に備え、中学段階からのデータの分析に関する基礎教育の充実	【ICT】 ア．技術家庭、情報基礎、情報と連携した教育活動の実施 イ．データの分析に関する生徒のスキルの向上	【ICT】 ア．年間を通じて、連携して教育活動を実施した（○） イ．情報基礎の科目において、データの分析の実践的な内容の授業を実施した（○）
の精選	年間行事の見直しを行い、学校行事の精選を図る	【教務】学校教育全体を見据えた学校行事の計画・調整	【教務】自己評価において、項目２の肯定的評価がそれぞれ９０％(2024年度86％)	【教務】さまざまな状況を勘案し、学校行事の調整を行った。項目２の肯定的評価は９０％であった（○）